

氏名： Laure Schwartz-Arenales (Laure Schwartz-Arenales)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 博士位 / Doctor (PhD)
職名： 准教授
E-mail： schwartz@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

日本美術史 / 仏教 / 美術館 / 欧米における日本研究 / 極東美術コレクション
Japanese Art History / buddhism / museum / western japanology / eastern art collection

◆主要業績

- ・「ガストン・ミジョン (1861-1930), ルーブル美術館極東美術コレクション初代学芸員 – 日本滞在百周年にあたりその業績を振り返る」
日仏美術学会 25 年周年記念シンポジウム「美術史におけるフランスと日本」発表論文日仏会館、2006 年 1 月 8 日。
お茶の水女子大学比較日本学研究センター研究年報 2007 年
- ・『応徳涅槃図』試論 ― 陰陽道と星辰信仰をめぐる二重のイメージ ―、『鹿島美術研究』(年報 23 号別冊)、p458-469 鹿島美術財団、2006 年 11 月
口頭発表 :2007 年 05 月 11 日鹿島美術財団賞 (受賞)

◆研究内容 / Research Pursuits

2007 年度は、比較日本学研究センターでの教育、研究活動等と平行し、ヨーロッパにおける日本美術への関心や日本美術研究史を追究してきた。フランスでの日本の美術品の発見というものを、この地における日本美術への評価、分析の発端となった様々な文化的背景(東洋学研究の伝統、ジャポニズム、比較研究、百科事典的精神、最初の極東美術館の誕生など)の中に捉えなおしながら、ルーブル美術館初の日本コレクションの学芸員であったガストン・ミジョンの果たした役割について研究の焦点を当てた。

また、博士論文でテーマにした平安時代の傑作「応徳涅槃図」(高野山霊宝館所蔵)の研究を続け、星辰信仰や陰陽道信仰と密接に関わった当時の風潮とこの仏教絵画との関係性を明らかにするための解釈を深めた。

Parallel to my my activities within the Center of Japanese Comparative Studies, I have concentrated my research on the history of the studies relative to Japanese Art in Europe. By situating in particular the discover of Japanese art in France within the different contexts and cultural circumstances having influenced their appreciation and analyze (orientalist tradition, Japonism, methods comparatists, encyclopedic approach, apparition of the first extreme-oriental art museums), I insisted on the role of Gaston Migeon, First Curator of Japanese Art collection at Louvre Museum.

Besides, in continuation with my research on the *ōtoku nehan zu*, masterpiece of the Heian Period preserved at the Reihōkan Museum (Mount Kōya), I tried to develop my interpretation intending to show how this Buddhist Painting could have been connected with the Onmyō and astrological beliefs.

◆教育内容 / Educational Pursuits

著名な美術品蒐集家であり日本美術愛好家であったミジョンは、今から 100 年前の 1906 年に任務で訪れた日本の建造物、美術館、名所、庭園、寺といった様々な場所について、本著で詳しく解説しており、取り上げられているテーマの多様性、その批判的アプローチ、そして著者ミジョン自身、当時の最も著名な日本美術愛好家と親交があったということからも、日本でほとんど知られていないこの本は、セミナーのテーマにとっても意義深いものである。

そして、本書の独創性を浮き彫りにするために、ルイ・ゴンズ、ウィリアム・アンダーソンといった日本美術史の偉大な先駆者の仕事にも着目する。

Devoted to the presentation of the history of Japanese Studies Overseas my teaching intend to introduce and analyze the birth and the development of Japanese Art history over the world, specially in Europe and America.

During the previous years, our courses focalized on the study of the Book [In Japan. Pilgrimages to the Shrines of Art] published in Paris in 1908. His author, Gaston Migeon (1861-1930), Curator in the Department of Decorative Arts of the Louvre Museum, was the first to introduce in 1893, Far Eastern Art collections within this prestigious institution. By describing in detail, with a critical approach many historical places like museums, gardens and temples, this book almost unknown in Japan allows us to examine how, just one hundred years ago, Western people, in particular in Europe, considered and interpreted Japanese culture. Finally, in order to stress the originality of this book, we have also studied important works written by pioneers in the field of Japanese Art History, as Louis Gonse or William Anderson.

◆研究計画

【将来の研究計画】

ヨーロッパにおける日本美術史の誕生についての研究では、ガストン・ミジョンが 1893 年にルーブル美術館へ初めて日本美術コレクションを導入した目的とその段階を明らかにしていく。今日ではほとんど知られていないが、日本美術研究史の中で中心的な役割を果たしたこの人物の功績に着目し、日仏文化交流における重要な局面を明らかにしていく。また、「応徳涅槃図」に関する研究を発展させ、その現段階を発表し、この作品を占星術と陰陽道に結びつけた新しい見方の下に捉えなおしていく。

【共同研究の可能性】

- * お茶の水女子大学比較日本学研究センター (2008-2009) / INALCO
フランス国立図書館 コレージュ・ド・フランスなど
プロジェクト名：欧米における日本学 ——日本美術研究を中心に——
- * お茶の水女子大学 / パリ第 7 大学 / フランス国立高等研究院 (2008-2009)
日本学の旅 - 日仏交流の強化と充実化 -

◆メッセージ

2004 年 6 月にお茶の水女子大学比較日本学研究センター助教授に着任して以来、フランス人研究者としての日本美術史に対する考察を伝え、大学や美術館での研究・勤務経験を生かして、お茶の水女子大学の国際学術交流に貢献できることは大変光栄である。講義や、比較日本学研究センターが主催する国内外での様々な活動（講演会、セミナー、シンポジウム、出版）を通して、海外で力強く発展し続ける日本学に接し、学生が研究テーマを発見し、これを深めていけるように促していきたい。日本美術に関する海外の文献の紹介と解説、海外の主要な日本学研究施設の訪問、講義や比較日本学研究センター主催の国際セミナー等は、我々の目的とするところであり、関心のある学生と共に追究していきたいと願っている。